

第１・２学年 図画工作科

１ 学年の目標

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して気付くとともに、手や体全体の感覚などを働かせ材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。
- (2) 造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて考え、楽しく発想や構想をしたり、身の回りの作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。
- (3) 楽しく表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする態度を養う。

２ 内容

A 表現	(1) 表現の活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるように指導する。 ア 造形遊びをする活動を通して、身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に造形的な活動を思い付くことや、感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するかについて考えること。 イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したことから、表したいことを見付けることや、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考えること。
	(2) 表現の活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 造形遊びをする活動を通して、身近で扱いやすい材料や用具に十分慣れるとともに、並べたり、つないだり、積んだりするなど手や体全体の感覚などを働かせ、活動を工夫してつくること。 イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表すこと。
B 鑑賞	(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。 ア 身の回りの作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品や身近な材料などの造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げること。
共通事項	(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。 ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付くこと。 イ 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。

３ 内容の取扱いと指導上の配慮事項

- (1) 児童が個性を生かして活動することができるようにするため、学習活動や表現方法などにも幅をもたせるようにする。指導に当たっては、目指す資質・能力を明らかにし、児童の表現を幅広く捉えるとともに、児童が自分の思いで活動を進めることができるようにすること。
- (2) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、児童が〔共通事項〕のアとイとの関わりに気付くようにする。自分の感覚や行為によって、自分なりのイメージが生み出されることを造形遊びをする活動や絵や立体、工作に表す活動、鑑賞する活動を通して児童が気付くように指導すること。
- (3) 第１学年及び第２学年においては、いろいろな形や色、触った感じなどを捉えられるようにする。それらを捉えられるようにするために、児童が自らいろいろな形や色を見つけたり選ん

- だり、触った感じを確かめたりすることができるような活動の時間を十分に確保すること。
- (4) 「A表現」の指導に当たっては、活動の全過程を通して児童が実現したい思いを大切にしながら活動できるようにし、自分のよさや可能性を見いだし、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養うようにすること。
 - (5) 学習の過程において、一人一人の児童がよさや個性などを生かして活動できるようにし、友人と互いのよさや個性などを認め尊重し合うようにすることが重要である。そのために友人の作品や活動、言動に関心をもつことができるような交流の場面を設定すること。
 - (6) 第1学年及び第2学年においては、土、粘土、木、紙、クレヨン、パス、はさみ、のり、簡単な小刀類など身近で扱いやすいものを用いること。簡単な小刀類は、厚紙などを切るための扱いやすいカッターナイフや、木の枝などを少しずつ削ったりできるような児童の手に合った安全な小刀などのことである。
 - (7) 児童の発達や実態を考慮した上で、児童一人一人が自分の関心のある表し方で表現を楽しみ工夫できる程度の版に表す経験や焼成する経験ができるようにする。
 - (8) 「B鑑賞」の指導に当たっては、児童や学校の実態に応じて、地域の美術館などを利用したり、連携を図ったりすること。
 - (9) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、思考力、判断力、表現力等を育成する観点から、感じたことや思ったこと、考えたことなどを、話したり聞いたり話し合ったりする、言葉で整理する言語活動を充実すること。
第1学年及び第2学年の表現においては、自分の思い付いたことや、表したいと思っていることを話したり聞いたりすること。鑑賞においては、活動を通して感じ取ったり考えたりした、形や色、表し方の面白さ、材料の感じなどを話したり聞いたりすることを楽しませるようにすること。
 - (10) コンピュータ、カメラなどの情報機器の利用については、表現や鑑賞の活動で使う一つの用具として扱うとともに、必要性を十分に検討して利用すること。
 - (11) 創造することの価値に気付き、自分たちの作品や美術作品などに表れている創造性を大切にする態度を養うようにする。そうした態度を養うことが、中学校美術科における美術文化の継承、発展、創造を支えていることについて理解する素地となるよう配慮すること。

4 安全指導

造形活動で使用する材料や用具、活動場所については、安全な扱い方について指導する、事前に点検するなどして、事故防止に留意すること。様々な学習場面で児童が材料や用具を扱う機会をつくり、十分に慣れ親しむことができるようにすることが重要である。

5 学校としての鑑賞の環境づくり

校内の適切な場所に作品を展示するなどし、平素の学校生活においてそれを鑑賞できるよう配慮する。また、学校や地域の実態に応じて、校外に児童の作品を展示する機会を設けるなどする。

6 評価の観点の趣旨

観 点	観点の趣旨
知識・技能	自分の感覚や活動を通して、形や色などに気付き、材料を用いたり、用具を使ったりする中で感じたことを生かしながら、表現方法を工夫したり、造形活動を充実させたりしている。
思考・判断・表現	自分が表現したいことや表現方法などを考え、材料の形や色などを基に活動や表し方を思い付いたり、身近な作品などの面白さや楽しさを味わったりしている。
主体的に学習に取り組む態度	作品などをつくったり、見たりすることがつくりだす喜びにつながることを楽しみながら、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとしている。